

※ 「成長の過程1, 2」では、幼少期の本人の特性がどのようなものか、又どう変化したかを記入します。

●成長の過程1 <関連の時期に斜線を記入します>

<記入例> ●社会性	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 集団より一人であるのを好む	/	/		
●社会性				
1 集団より一人であるのを好む				
2 視線が合いにくい				
3 受身的で自らは関わりを求めない				
4 積極的に関わるが一方的になりやすい				
5 友達関係を築きにくい				
6 周囲の人の感情に気づきにくい				
7 集団の中で浮きやすい				
8 常識や暗黙の了解がわかりにくい				
9 身づくろい・身の回りの事に無頓着である				
10 口喧嘩や邪魔をする・トラブルが多い				
11 自分が非難されると過剰に反応する				
12 からかわれやすい・いじめを受けやすい				
その他				
●コミュニケーション				
1 表情が乏しい・不自然				
2 言葉での指示は理解が難しい				
3 細部にこだわり難しい言葉を使う				
4 自分の興味あることを相手構わず話す				
5 言外の意味や皮肉を理解できない				
6 言葉使い・声の調子や音が独特である				
7 会話が一方通行・応答にならない				
8 共感する動作が少ない〜うなずく・身振り等				
9 状況に関係なく周りが困惑することを言う				
10 独り言が多い				
その他				
●イマジネーション				
1 手を振るなどの常同行動がある				
2 物集めや情報記憶に熱中する				
3 お決まりの行動パターンがある				
4 変化を嫌い、いつも通りを好む				
5 初めての場所や人は苦手である				
6 興味を示すものに偏りがある				
7 気持ちの切り替えが苦手である				
8 突然の事や急な予定変更は混乱する				
9 物のある一部等に注意が向き、没頭してしまう				
その他				

() さんのファイル 記入者氏名 () 続柄 () 記入年月日 (年 月 日)

「成長の過程1, 2」について

本人の発達障害の大まかな特性や、適応状態を把握出来るようになっていきます。(詳しい状態整理は、「Ⅱ現在の状態①」で行います。先に「現在の状態①」で状態整理を行うと、記入しやすいでしょう。)

発達障害のある人は、幼児期に現れていた特性が、発達とともに目立たなくなっていくことがあります。しかし、不適切な支援や環境下に置かれると調子を崩し、特性が強く現れたり、出来ていたことが出来なくなったりします。幼児期の情報、各ライフステージごとの情報を把握しておく、ご本人の今の状態を理解する手掛かりとなります。

<各カテゴリーについて>

・「社会性」、「コミュニケーション」、「イマジネーション」、「感覚過敏」は、自閉スペクトラム症(自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群)の主な特性です。

・「不注意・多動・衝動性」は、AD/HD 注意欠如多動症(注意欠陥多動性障害)の主な特性です。

・「その他」には、限局性学習症(学習障害)の特性や、運動面、知的機能のアンバランスなどの特性が含まれています。

・「困った行動」には、自傷や他傷行動などの行動問題の有無を記載します。

<記入の仕方>

・各項目にある行動の変化が見られた時期に斜線を引きます。

・気付いた事や特記事項はその他に記入します。「いつ頃」、「どのような様子があったか」を記入します。

	項目についての補足説明
●社会性	5 友達関係を築きにくい ・年上や年下の人とばかり遊び、同級生との関係を気づきにくい場合なども含まれます。 年齢相応の交友関係があるかどうかを記載します。
●コミュニケーション	・「独特のイントネーション」や、「エコラリア(オウム返し)」、「繰り返し同じことを聞く」などの特徴や、「言葉がない場合」や、「幼児期の言葉の遅れの有無」などは、「その他」に記載しておきましょう。
●イマジネーション	1 手を振るなどの常同行動がある ・常同行動とは、手をひらひらとさせたり、上半身を揺すったり、繰り返し飛び跳ねるなど、身体を同じやり方で繰り返し動かす行動のことをいいます。
	4 変化を嫌い、いつも通りを好む ・順番、やり方、人、場所、物の配置や物の状態の変化、衣替えなど、様々な変化が含まれます。
	6 興味を示すものに偏りがある ・年齢相応でないものや、通常は興味の対象とならないものに興味をもったり、特定のジャンルのものに強く関心を示すことなどがあります。
	7 気持ちの切り替えが苦手である ・している事を中断して、次の行動に移ることが難しい場合や、なかなか気分転換が出来ず、気持ち切り替えのに時間がかかる場合などが含まれます。
	9 物のある一部分に注意が向き、没頭してしまう ・物を本来の目的とは違うやり方で繰り返し扱うことなどを言います。(例:本のページめくりや紙破りに没頭する、エレベーターのボタンを繰り返し押す、物の一部を見つめ続けたり繰り返し触る、ビデオの特定場面を繰り返し見るなど。) ・感覚あそびへの没頭がある場合は、「その他」に記載しておきましょう。

●成長の過程2 <関連の時期に斜線を記入します>

●感覚過敏	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 耳心ざぎや音に敏(鈍)感な様子がある				
2 光や回るもの・鏡などの刺激を好む				
3 水などの特定の触感を好む(嫌う)				
4 物のおいをよく嫌う				
5 特定の味覚や食感を好む(嫌う)				
6 痛みに敏(鈍)感である				
7 暑さ・寒さに敏(鈍)感である				
その他				
●不注意・多動・衝動性	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 うっかりミスが多い				
2 注意を集中し続けることが難しい				
3 話しかけても聞いていないようにみえる				
4 仕事をやり遂げることが難しい				
5 物事を順序立てて行うことが難しい				
6 努力を要する課題を避ける				
7 なくし物が多い				
8 注意がそれやすい				
9 忘れっぽい				
10 手足をそわそわ・もじもじすることが多い				
11 静かな活動に参加することが難しい				
12 じっとしていない				
13 しゃべりすぎる				
14 質問が終わる前に答えてしまう				
15 整理や片付けができない				
その他				
●その他	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 体の使い方がぎこちない				
2 手先が不器用である				
3 寝つきが悪かったり眠りが浅い				
4 偏食や過食がある				
5 書くことがとても苦手である				
6 読むことがとても苦手である				
7 歩き方・姿勢の異常がある				
8 人の顔が覚えられない				
9 興味のある分野の知識が豊富である				
その他				
●困った行動	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 自分を傷つける				
2 他人に粗雑な行為をする				
3 物を壊す				
4 水分を多飲する				
5 性的な行動が逸脱している				
その他				

		項目についての補足説明
●感覚過敏		<ul style="list-style-type: none"> 感覚が過敏であったり、鈍感であったりします。 聴覚、視覚、嗅覚、味覚、触覚のほか、気温や気圧の変化に影響を受けやすい場合や、前庭覚や固有受容覚に特徴をもつことがあります。 前庭覚とは、自分の身体の傾きやスピード、回転を感じる感覚で、ちょっとした揺れで気分が悪くなる場合や、激しく回転しても目が回らないことがあります。 固有受容覚とは、自分の身体の位置や動き、力の入れ具合を感じる感覚です。身体をぎゅっと締め付けられるような感覚が好きな場合や、力のコントロールが出来にくく物をすぐに壊してしまう、自身のボディイメージが弱く、身体をよくぶつける事などがあります。
●不注意・多動・衝動性	4 仕事をやり遂げることが難しい	・集中できない、あれこれ手をつけてしまうなどにより、最後までやり遂げることが難しいことがあるかを評価します。
	5 物事を順序立てて行うことが難しい	・手順を覚える、優先順位を考えて取り組む、計画を立てて遂行できているかなどを、評価します。

●その他	4 偏食や過食がある	感覚過敏の「5 特定の味覚や食感を好む(嫌う)」とも重なりますが、食事に関する特記(小食や、食に関する関心がないなど)がある場合は、「その他」に記載します。
	5 書くことがとても苦手である	本人の発達年齢を踏まえ、発達年齢に応じた能力を評価します。
	6 読むことがとても苦手である	
●困った行動	9 興味のある分野の知識が豊富である	バスの路線や時刻表、カレンダー計算、アニメなど、突出した能力や知識(ピークスキル)を持っている場合があります。
		・挙げられている行動以外にも、困った行動がある場合は、「その他」に記載します。

()さんのファイル 記入者氏名() 続柄() 記入年月日(年 月 日)

II. 現在の状態 ①

●所属機関

所属機関名（学年）：	所属機関先：〒
------------	---------

●健康

●身長（ ）cm ・ 体重（ ）kg ・ 平熱（ ）度
●現在の健康状態 < 心臓疾患・てんかん発作・ぜんそく発作・アトピー・その他の疾患（ ） >
具体的な症状と対処方法：
●アレルギーの有無 < 食物・動物・植物・ハウスダスト・その他（ ） >
具体的な症状と対処方法：
●服薬の有無 < 有 ・ 無 > ※医療機関に関する情報は、P28 へ。
管理・服薬の仕方：
●「痛み」「不快」（頭痛・歯痛・吐き気・熱・鼻血などの症状）の訴え方
観察のポイントと対処方法：
●治療に関しての特記（治療に関する約束や手順など）
●睡眠について

●食事

●食欲や偏食（あり ・ なし）
●好きな食べ物・飲み物（成人期の場合は、嗜好品も含む）
●苦手な食べ物・飲み物

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ 続柄 ） 記入年月日（ 年 月 日）

#

●服薬の有無

- ・服薬の仕方や時間を理解しているか、過剰摂取など、服薬に関する問題がないかを記入します。
- ・自身で飲むことができない場合の、援助の仕方なども記載しましょう。
- ・塗布薬や、目薬の使用についても、特記事項を記載しておきます。

●痛みや不快

- ・痛みに対する、過敏性や鈍麻があれば、併せて記載しましょう。

●治療に関しての特記（治療に関する約束や手順など）

- ・苦手なことは、その程度も併せて記載しましょう。
- ・特に、初めての場合や、受診に不安を感じている場合、本人に予告をせずに治療を行うと、不安が増大し、その後の治療がより困難になる場合もあります。予告のために、有効な方法（口頭で予告する、写真を見せる、手順書を使用する、安心グッズを持参するなど）を検討しましょう。

●睡眠について

- ・就寝時間と、起床時間を確認するとともに、入眠までの時間や、質の良い睡眠（ぐっすり眠る）がとれているかを確認しましょう。
- ・睡眠が十分にとれていない場合や、長期間睡眠に課題がある場合は、医療機関に相談した方が良い場合があります。

●苦手な食べ物・飲み物について

- ・感覚過敏が影響していることも多く、苦手なものを、無理して食べていると、余計に偏食を強めることがあります。楽しく食べることを大切に、栄養が偏る場合は、他に食べられるものやサプリメントなどで補うことも一つです。

Vertical line on the left side of the page.